

東京都立杉並高等学校令和4年度 第六八回卒業式式辞

日一日と暖かくなり、梅がほころび早春を彩っています。例年より寒かった冬もようやく終わりに近づき、この善福寺川周辺にも春の息吹が感じられるようになりました。

本日、ここに東京都立杉並高等学校を卒業していく六八期生三〇二名の皆さん、卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。お子さま方が、本日ここに立派に卒業を迎えられたことは、何よりもご家族の皆様の支えや励ましがあったからです。卒業生の皆さんも、ご家族への感謝の気持ちを決して忘れないでください。また、ご多用中のところご列席くださいました来賓の皆様、日頃より様々な形で本校にご支援、ご協力いただきありがとうございます。ここに、このように立派な卒業生を新たに送り出すことができましたのも、皆様方をはじめ、たくさんの方々のおかげであると大変感謝しております。

さて、皆さんが入学した年は、新型コロナウイルス感染症拡大のため入学式を行うことができませんでした。登校も時差通学と分散登校が強いられ、学校行事もほとんど中止され、部活動も制限されて思うような活動ができない日々が続きました。二年生になって、制限付きながら学年ごとに体育祭、杉高祭を実施できるようになりました。部活動も感染予防を行いながら、観客・応援なしで大会やコンテストが行われた部が多かったと思います。今年度になり、皆さんが神戸・京都・大阪の修学旅行へ行くことができました。USJでの皆さんの楽しそうな姿は今でも忘れられません。六月には、保護者の皆様の観戦をご遠慮いただくことにはなりましたが体育祭を実施し、九月には杉高祭を実施し、入れ替え制ではありますが保護者の皆様に観覧していただくことができました。学校行事や部活動をやり遂げた皆さんが、日々成長するのを感じ大変うれしかったことを覚えています。新型コロナウイルス感染症予防を工夫しながら取り組んだ学校行事、そして勉強や部活動などに一生懸命に取り組んだ学校生活は、少し切なさ

も感じますが、あとで思い返すことがあれば、限られた条件の中でどの年代よりも精いっぱい取り組んだ密度の濃い貴重な経験であったと、誇りと自信をもって振り返ることができると思っています。

さて、今日卒業生の皆さんが手にした卒業証書は、「本校の学びをすべて終えた」という証しであるとともに、「もう、一人で社会に出て行っても大丈夫」という証しでもあります。皆さんは、これから社会の中で、自らの資質や能力を発揮して、答えのない課題を見つけ、組織の中でチームとして協働しながら、新たな価値を創造し、社会に貢献することが求められます。そのためには、これまで本校で三年間学んで積み上げてきたものを、さらに発展・向上させ、自ら主体的に学び続けていくことが必要です。そこで、卒業生の皆さんになむけの言葉を贈ります。ある電機メーカーの創業者である松下幸之助氏の言葉です。

自分には自分に与えられた道がある。

天与の尊い道がある。

どんな道かは知らないが、

他の人には歩めない。

自分だけしか歩めない、

二度と歩めぬかけがえのないこの道。

広いときもある。

狭いときもある。

のぼりもあれば、

くだりもある。

坦々としたときもあれば、

かきわけ、かきわけ汗するときもある。

この道が果たしてよいのか悪いのか、

思案にあまるときもあろう。

なぐさめを求めたくなるときもあろう。

しかし、所詮はこの道しかないのではないか。

あきらめろと言うのではない。

いま立っているこの道、

いま歩んでいるこの道、

とにかくこの道を休まず歩むことである。

自分だけしか歩めない大事な道ではないか。

自分だけに与えられている、

かけがえのないこの道ではないか。

他人の道に心を奪われ、

思案にくれて立ちすくんでいても、

道は少しもひらけない。

道をひらくためには、

まず歩まねばならぬ。

心を定め、懸命に歩まねばならぬ。

それがたとえ遠い道のように思えても、

休まず歩む姿からは

必ず新たな道がひらけてくる。

深い喜びも生まれてくる。

卒業生の皆さん、皆さんはこれから未知の世界に旅立っていくわけですが、困難にぶつかることも多々あると思います。失敗することもたくさんあるでしょう。その時、簡単に投げ出さず、志を忘れずに立ち向かうことが重要です。本校は、グローバルな人材の育成をスクールミッションに掲げています。これには、自ら考え、多様な価値観を認め合うことができること、積極的に飛び込んでいく前向きな気持ち、姿勢・行動力を持っていること、そして人間として信頼される高い倫理観を持っていることが必要となります。そのことを忘れずに、皆さん、卒業後はいろいろなことにチャレンジしてください。あまり内向きにならず、冒険してください。それでは、卒

業生の皆さんの前途を祝し、限りない発展を願って、私の式辞といたします。ご卒業おめでとうございます。

令和五年三月四日

東京都立杉並高等学校長 高橋 聡